

2016年熊本地震で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。JISPは熊本震災直後から支援活動を続けております。2016年度後半は、ニーズアセスメントを踏まえて、3つの活動を行いました。1) 子どもたちに対する体を使ったストレス緩和、2) マイノリティである外国人居住者への心のケアや防災についてのセミナー、3) 児童クラブへのボランティア派遣。今回はこれらの活動について報告いたします。

心理専門家によるヨガセッションを実施

ヨガインストラクターで心理専門家でもある大滝涼子氏を派遣し、被災した熊本市の小学校で特別支援の子どもたちに、ヨガを通じたストレス緩和リラグゼーションのセッションを提供し、のべ44名の子どもが参加しました。ヨガでは、元気よく声を出したり、呼吸をしたり、呼吸と合わせて体を動かし、最後のリラクゼーションの時間は、お友達同士お互いの足をマッサージしました。また、保護者向けセルフケアのヨガワークショップを開催し、保護者9名と乳幼児3名が参加しました。普段、自分のケアをする時間が中々取れないお母さん方のリラックスする時間になりました。



▲子どもたちにヨガを教える臨床心理士の大滝氏

専門家による外国人居住者向け防災セミナー開催

JISPの理事であり防災の専門家でもある市居嗣之博士による防災セミナーを熊本国際交流センターとの連携により開催し、熊本在住の外国人約40名が参加しました。外国出身の参加者が、取り残され孤独を感じた地震体験について話したあと、地震のメカニズムや起こったときの行動についてのケーススタディ、安全と災害に対する準備についてのルールを学びました。また、在日外国人支援についてのシンポジウムも開催され、臨床心理専門家であるネパール人スタッフのビゼイ・ゲワリ博士が、災害と心のケアについてのプレゼンテーションを行いました。



▲トレーニング参加者と話す市居博士

児童クラブへのボランティア派遣

スタッフの人手不足が問題である学童に、夏休み期間中6名のボランティア派遣を実施し、約100名の子どもを支援しました。ボランティアに参加して下さった、看護学部学生の瀬戸葵さんは、「熊本についての報道がほとんどなくなってきていることから、現地に入るまでは、できることはあるのだろうか？ボランティアは必要ないのでは？という気持ちがあった。しかし、熊本へ行ってみるとそれは間違っているということにすぐに気がついた。今回の熊本で私は報道がほとんどされてはいないが復興はまだこれからであり、多くの力が今後も必要であることを感じ、報道がされないのであれば私が私の感じたこと、思ったことを多くの人に伝えなければいけないと強く思った。私は東日本大震災で復興には長い時間がかかること、多くの長い支援が必要なることを知っている。これからも長く長く熊本と関わって行きたいと思った。」と語って下さいました。



▲学童の子どもたちと遊ぶボランティアの今野涼太さん。

ボランティアや寄付をくださった皆さまのおかげでこれらの支援活動を行っております。ご協力くださった皆さまに改めてお礼を申し上げます。

熊本支援活動への寄付をお考えの方は、下記の口座までお振込をお願いします

ゆうちょ銀行から 記号 **18100** 番号 **6992821** ゆうちょ銀行以外の銀行から **普通預金** 店番号 **818** 口座番号 **0699282**

※お振込みいただいた後、下記のお問い合わせ電話番号にご連絡いただけますようお願い致します。
※JISPwebサイトの寄付ページ (<http://jisp.org/donate/>) からクレジットカードでご寄付いただけます。